

平成30年度 各務原市PTA連合会 研究大会
「PTA委員会発表」資料
学年学級委員会

発表テーマ

「育てよう！心豊かでたくましい子ども
高めよう！家庭と地域の教育力」



各務原市立緑陽中学校PTA

1 はじめに

(1) 緑陽中学校の紹介

各務原市立緑陽中学校は、緑豊かな緑苑の自然に囲まれた中にあり、緑陽中学校の名称は、緑苑の緑と太陽の陽を組み合わせたものである。全校生徒は329名であり、今年は学校創立40周年を迎えた。去る11月6日は、フリー参観と同日にJリーガーから車いすのバスケットボールプレーヤーになった京谷和幸氏による講演会を実施し、12月1日には、創立40周年記念式典を日頃お世話になっている方々をお招きして行った。その後、合唱交流会で生徒達の歌声を披露した。

緑陽中学校の教育目標は、『磨き合う緑陽～「もっとよい自分」づくりを基盤として～』である。学校生活の4本柱である学習、合唱、清掃、ボランティアを重視し、「居場所づくり」の1年、「柱づくり」の2年、「自信と誇りづくり」の3年を意識して、一人一人の生徒が「主体性」をもち、安全、安心、楽しく活力ある学校を常に目指している。

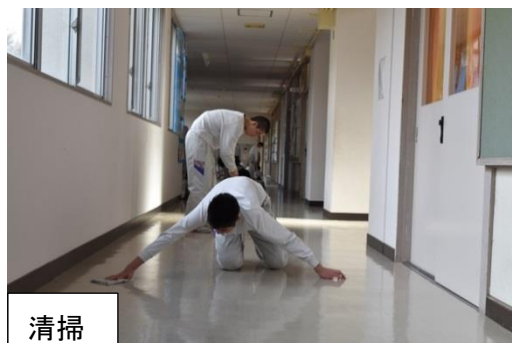
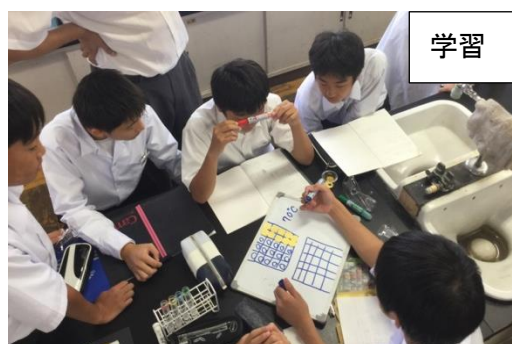
部活動においては、剣道部女子が中体連東海大会優勝、吹奏楽部が東海吹奏楽コンクール銀賞など、優秀な成績をおさめた。

本校では、学校生活の4本柱の1つでもあるボランティア活動に力をいれている。その中でもフラワーエンジェルは、年に数回、校区在住の1人暮らしの高齢者のお宅を訪問して交流し、体育祭や合唱交流会などへの招待をはじめ、年末に心を込めたメッセージカードと花を渡している。毎年、お礼の手紙や電話をたくさんいただき、地域の方とのつながりも深まっている。この活動は、ほぼ生徒参加率が100%である。一人一人が、意欲的に活動に参加しており、今後も継

続していきたいと思っている。

さらに、家庭、地域、学校がひとつになって「地域とともにある」コミュニティスクールを目指している。

緑陽中学校の4本柱



2 学年学級委員会について

(1) 学年学級委員会の活動方針

- ・子どもを心豊かに育むために、学年学級PTAのあり方を探り、学校教育の理解に努める。
- ・子どもに関する問題や学年学級PTAの活動についての研修に努める。
- ・教師と保護者との共通理解を深め、学校・家庭の協力態勢の確立に努める。

(2) 学年学級委員会の組織

＜学年学級委員長 3名＞

各学級1名×9クラス

- ・市PTA連合会会議出席（年3～5回）
- ・学年学級PTAの実施
- ・PTAあいさつ運動
- ・学年学級の教材費の会計監査
- ・次年度学級PTA役員選出の運営
- ・市PTA行事参加（年2回）

(3) 平成30年度 学年学級委員会の活動への思い

①これまでのPTA活動の状況

啓発的な活動であるPTAあいさつ運動等において、PTAや生徒、学校がそれぞれで参加・活動しており、連携が弱い状況であった。



②これからのPTA活動

PTAが単独で活動を行うのではなく、連携を強化して、様々な活動や問題に対し、家庭、学校、地域が協力して子ども達を育てていけるよう活動を継続していく。

(4) 学年学級委員会の活動内容

①学年学級PTAの実施

各行事や授業参観時等に行われる学年・学級懇談会の際に、学校と連携を取り、教師と協力して会の運営を図った。特に、学校と家庭が協力した支援が必要な際には、教師と保護者の共通理解を深め、保護者の中心となって話し合いを進め、問題解決を図った。

②学校・PTA行事への協力

各行事における準備・片付けの協力に加え、行事への参加・参観の啓発を行った。

定期会議に加え、PTAに係る大会等の準備・計画、参加を率先して行った。

専門委員会が実施する講演会、講座への協力を行った。

③啓発的活動の実施

PTAあいさつ運動の計画や参加、子ども達への啓発を行った。

学年懇談会の内容を学級委員連名で配布し、子ども達の状況の周知と各家庭への協力の呼びかけを行った。

(5) 実践事例

① P T A あいさつ運動について

P T A あいさつ運動は、毎月1回、第1月曜日に行っている。昨年までは、火曜日に行っていたが、部活動の朝練習のない月曜日に変更することで、生徒も参加しやすいようにした。

これにより、昨年度、疎らな参加状況であったP T A あいさつ運動も、今年度は多くの生徒が参加している。P T A 学年学級委員や校長先生をはじめとする先生方の他、生徒会執行部、生活委員会、MS Jリーダーズの生徒たちが参加している。さらに今年は、部活動単位での参加も見られるようになった。中には、登校してきた友達に「一緒にやろう」と声をかけ、生徒同士で誘い合い参加者が増えていく様子も見られている。

あいさつ運動中は、P T A の参加者や地域の方、生徒と会話する場面も多々あり、交流の機会となっている。



<生徒の感想>

・僕は、P T A の方々とのあいさつ活動で、とても多くの生徒があいさつをしてくれてうれしかったです。P T A の方々が、大きな声であいさつをしてくださると、いつもより大きな声であいさつを返してくれる生徒が多くなりました。また、部活動の朝練習の時間をあいさつ活動に回してくれる部もあったり、自分の時間を割いてあいさつ活動に参加してくれる人もいたりして、学校の門には、長い列ができていました。それを見て僕はとても気持ちがよくなりました。

あいさつがあふれる緑陽中をつくるためにも、これからもP T A の方々とのあいさつ活動を続けていきたいです。

・あいさつ運動に参加しようと思ったのは、部活動がきっかけです。バレーボール部では「あいさつ」「声を出すこと」を大切に活動しています。あいさつ運動に参加することで、声を出す機会が作れます。また、あいさつは、あいさつをした側もされた側も嬉しくなるし、学校全体を明るくすることにもつながります。

実際にやってみて、いろんな人があいさつを返してくれてとても嬉しかったです。朝から温かい雰囲気づくりができ、気持ちよく1日をスタートすることができました。また、あいさつ当番としていらっしやっている保護者の方や地域の方とも会話をしたり、つながりができたりして、とてもいい機会になりました。

②学年学級懇談会の取組

学年学級懇談会は、授業参観後に、学級や学年単位で行っている。各担任の先生に、学校の様子や子どもの日頃の学校生活から、成長したこと、さらに伸ばしたいことなどをお聞きし、保護者との共通理解を図ることができるように情報を共有している。家庭において、子どもたちへの関わりを意識できるよい機会となっている。

現在、小学生で27%、中学生になると51.7%の生徒が携帯電話を所有していると言われている。その中で、本年度は、スマホやSNSの問題が数件起こり、学校で学年や学級での指導が行われた。

しかし、実際にスマホを利用する場所は家庭であることが多いことから、このような問題に関して学校だけで対応していくことは大変難しく、保護者の協力なくしては解決できない状況であると考え、子ども達が安心して学校生活を送ることができるよう、教師と保護者が協力して問題を解決していくこととした。

学年通信を配布し、各家庭にトラブルの状況を大まかに知らせると共に、各家庭の協力を得るため、学年学級懇談会開催のお知らせと参加の呼びかけを行った。学校と協力しながら、学年学級懇談会を学年委員長が中心となって進め、今回のトラブルについて話し合った。

さらに、学年学級懇談会の内容について、学級委員連名で文書を配布し、子ども達の状況の周知と各家庭での協力を再度呼びかけた。長期の自由時間が増える夏休み前に、このような話し合いがもてたことで、各家庭で、今後どんなルールで、携帯電話と付き合

っていくべきかについて、活発な意見が出された。

同じ時期に、学校では、外部講師による全校生徒を対象とした、「情報モラル講習会」が実施され、生徒自身も自分のこととして考えることができた。

今回の事例を通して、親子で話し合う機会をもち、約束やルールを作っていくことの大切さが確認できた。



<学年懇談会での交流内容について>

【各家庭での状況】

携帯電話、ipod を持たせている

- ・フィルタリングはかけている。
- ・今回の件で、LINE の利用をやめた。
- ・習い事に1人で行くため、習い事のときにのみ持たせ、他は親が管理している。
- ・いつでも親が見られる状態にしてあるがLINE の内容までは確認していない。
- ・Wi-Fi が使えるところのみでの利用で持たせている。
- ・親に隠れて使うくらいならルールを決め SNS の使い方を教育していくために使わせている。
- ・リビングで使用させている。寝るときはリビングに置いていくように決めてある。

携帯電話を持たせていない

- ・今回のこともあり、子供が自分から携帯は必要ないと言っている。
- ・携帯電話を使用していることで、家族の会話がなくなったり、コミュニケーションが少なくなったりする恐れがあるので持たせていない。
- ・善悪の判断が未熟であることや、流されてしまうことがあると思うと持たせるのは高校生になってからでもよいと思う。
- ・子供にもプライバシーがあり、親ですべて管理することはできないので、携帯電話などは持たせない。

その他

- ・親の知らないところで携帯電話を購入して使っている子が何人もいることを知ったときは驚いた。
- ・親の携帯電話を使って LINE しているのでいつも内容を確認できるが何百件の LINE が来ていた時は危機感を感じた。
- ・ゲーム機でもネットにつながるので、使用時間を決めて使わせる必要がある。

《使用時の約束や今後についてのご意見》

- ・学年、学級の LINE グループは怖いので止められるものは止めていく。
- ・パスワードは親が認識し、いつでも開けることができる状態で利用させる。
- ・LINE を使わせるのであれば親も見なければならぬ。
- ・携帯電話などを持たせるのなら、使用時間（1時間くらい）、使用場所などのルールを決める。
- ・フィルタリングは必ずかける。
- ・寝るときは部屋に持ち込ませない。
- ・午後9時以降は使用させない。もし、使用しなければならないときは親が見ている前で利用させる。
- ・親が規制しても子どもが自覚しなければ意味がないので、自分で考えて行動できる力をつけていきたい。
- ・投げかける側は軽い気持ちでも、受け取る側はとても傷つくことがあるので、受け取る側の立場を考えてから送る。

(6) まとめ

現在、PTA学年学級委員会では、会員の人数の減少や共働き家庭の増加等もあり、PTA活動への運営や参加に困難が生じている。そこで、本年度は大きな難しいことを短期間で行い終了してしまう活動ではなく、保護者一人一人が「できること」を考え、誰でもできることを継続して行っていくことを大切にしていきたいと考え、活動にあたってきた。

今回実践事例②のような子ども達に起きた問題に対しては、学校と協力し、学年学級委員会が保護者の中心となって問題解決に向けて対応できるよう活動していくことが大切であった。今後も生徒を中心に、学校・家庭、地域が協力して子ども達を育てていけるような活動を継続していきたいと考えている。

今後さらに、小中学校との連携や地域行事との連携を密にし、PTAの関わりを大切にしていく。

